

「健二君の学級新聞づくり」

問題提起の場面



太郎君は、高畑小学校の六年生です。絵を描くことが大好きです。いつも学校の休み時間や家で、自由帳に大好きな絵を描いています。今日も夢中で、いくつものイラストを描きました。その中には、何度も描き直してようやく完成したイラストがありました。このイラストは、太郎君にとって一番大切なものです。だから、だれにも言わず秘密にしていました。

ある日、二時間目が終わった休み時間に、太郎君はいつものように自由帳を広げてイラストを描いていました。そこへ、仲良しの健二君がやってきました。

「ねえねえ、太郎君のイラストがっこいいね。僕の自由帳に写していい？」

太郎君は少しの間考えました。

「このイラスト、一番気に入ってるんだ。健二君の自由帳だけならいいよ。」

健二君は、自分の自由帳に、太郎君のイラストを写しました。

一週間後のことです。仲良しの太郎君は風邪で学校を休んでいました。

新聞係になっていた健二君は、その日だす予定の学級新聞をじっと見ていました。

「うーん、何か、カッコいいイラストがあるといいな！」

「そっだ、いい考えがあるぞ！」

発問 健二君はこの後、どうしたと思いますか。
ア 太郎君のイラストを勝手に使った
イ 太郎君が学校にでてくるのを待って、イラストを使っていいかたずねた
ウ その他

イラストを勝手に使った場合

健二君は太郎君に何も聞かないで、太郎君の一番大切にしていたイラストを学級新聞に写して張り出しました。

翌日、風邪が治って学校に出てきた太郎君は、壁に張られた新聞を見て驚きました。大切な自分のイラストが使われています。太郎君の目には、うつすらと涙が浮かんでいます。

その様子を見た健二君は、うつむきながら言いました。

「ごめん。勝手に使ったほうが悪かったよ……。」

太郎君は、答えました。

「健二君、どうして、ぼくのイラストを勝手に使ったの？」

二人の間を、気まずい空気が流れていきました。

イラストを使っていいかたずねた場合

健二君は悩んだ末に、学級新聞を出す日を遅らせました。翌日、健二君は風邪が治って学校に出てきた太郎君に、イラストを使っていいか尋ねました。

「太郎君、この前のかっこいいイラストだけど、どうしても、学級新聞に載せて紹介したいんだ？」

「ちよっと恥ずかしいけど、いいよ。」

放課後、壁に張りだされた学級新聞には、太郎君の名前の入ったイラストが載っています。周りでは、大勢の友だちが見ています。その中に、太郎君と健二君の笑顔もありました。

読まない

読まない

発問
太郎君と健二君の言ったことを想像してみましょ。

読まない

読まない